

まずは IAF のことについて書く前に自己紹介を。

はじめまして今回 IAF のスカラシップメンバーに選んでいただいた、大阪経済大学 経営学部 経営学科一年生 入谷翔です。

僕は今 19 歳でスカラシップメンバーの中では、最年少です。

IAF の参加者の中でも最年少だと思います。しかも海外に行くのも一人で旅をするのも初めてで、自分でホテルを取り、航空券を取り IAF の参加を申し込み、荷造りをして一人で空港まで行き一人で飛行機に乗り一人で海外に降り立ちました。今こうして振り返っても自分ひとりで、すべてやってのけた事が信じられません。何もかもが初めての経験です。

しかも英語が話せないどころか、リスニングも苦手で英語に対する不安やコミュニケーションがうまく取れるかも不安でした。

今回はそんな僕が IAF に行き学び、気づき、印象に残ったこと、今後に活かしたい事、を報告します。

今回の IAF で僕が学び成長したことは「挑戦する事」「失敗なんか無い」「挑戦したことは後悔しない」「変わるのは自分自身」です。

僕は英語が得意ではありません、IAF に行くことが決まってから帰ってきた今でも英語は苦手です。そんな僕は全部英語の IAF ではとても苦労しました。



英語で頑張って交流にチャレンジしている僕です。

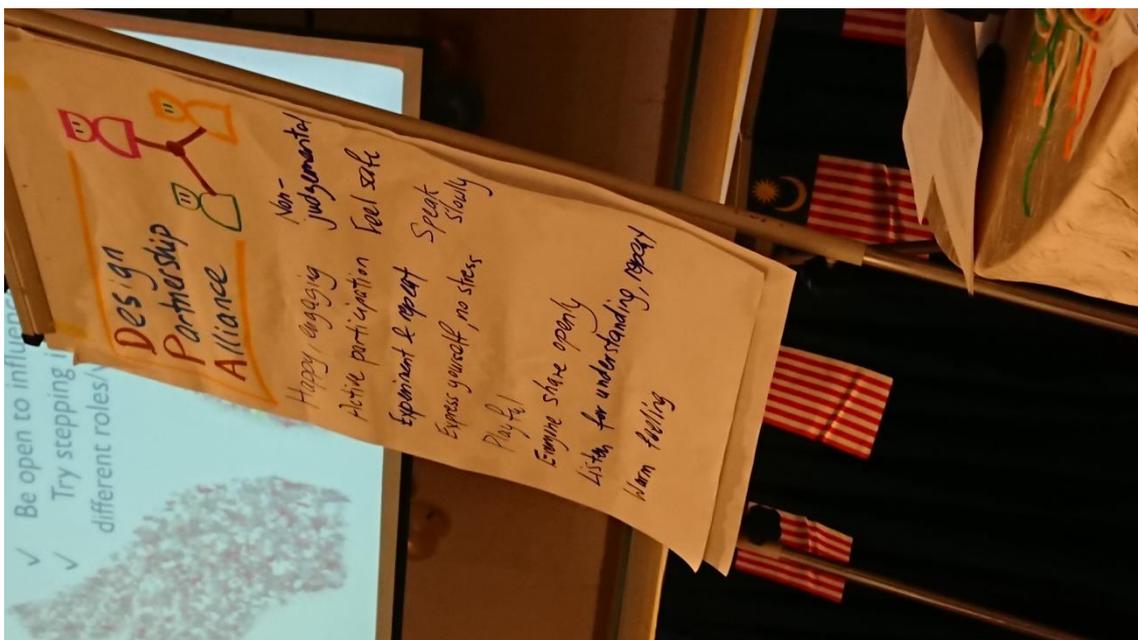
IAF スカラシップメンバー 入谷翔

IAF は本大会の二日間参加しました。一日目には、最初に八人でチームを組んでチーム名を決めることになり、ほとんど聞き取ることが出来なかった僕は焦り緊張し頭が真っ白に。僕の前の人が「mixology」と意見を出して僕の番に、焦った僕は「英語が得意じゃないから難しい」と何とか伝えました。するとみんなは笑って「日本語でもいいよ！」と英語が出来ない僕に合わせてくれたのです。僕はとっさに「多様性」と答えました。みんなは意味なんか分からないのに、チームの名前に採用してくれました。言語の壁を越えてチームの一員になれた気がしました。



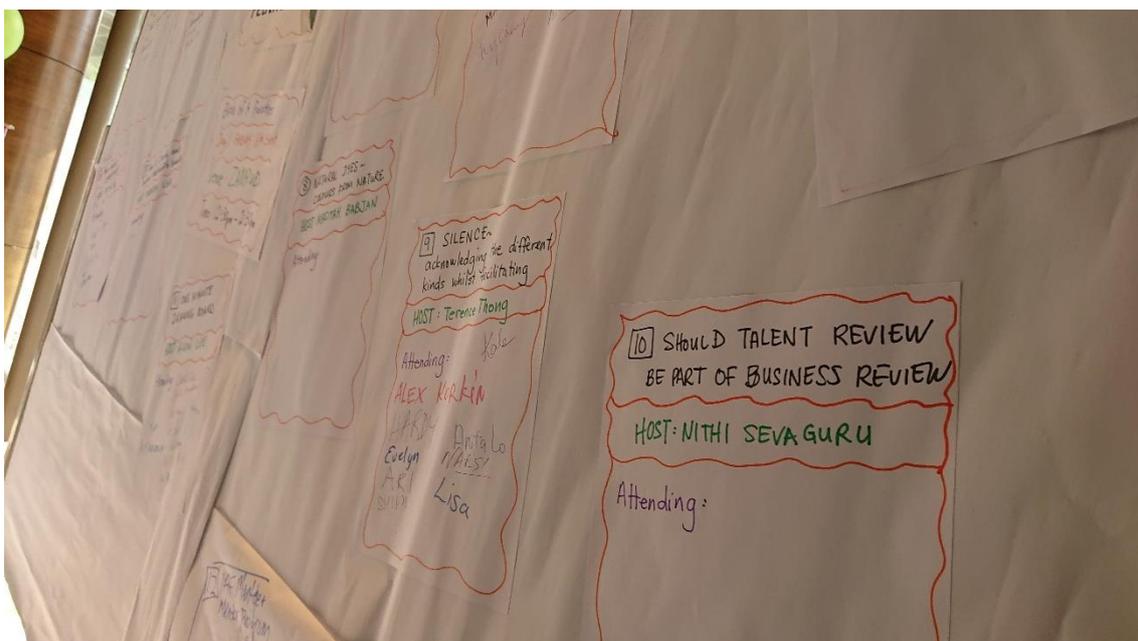
チームの名前が「HELLO TAYOSE」に

英語に対する不安を少しだけ残しながらセッション1に向かいました。セッション1は英語でディスカッション形式なのでほとんどわかりませんでした。急遽ファシリテーターが交代したみたいで、講義形式で余計に全く分からず、、、ここで完全に僕の心は折れてしまいました。相手の言っていることだけではなくて自分が言いたいことすら相手に伝えることが出来ずに、ファシリテーションを学びにIAFに向かったのに言葉が分からない。悔しくてたまりませんでした。



いまいち内容が分からなかったので写真もよくわかりません(^_^;)

昼食の時間には、テーブルごとに行くか企画のようなものが行われていました。その中で日本人の方が行っているテーブルに座って食事をとっていました。「ジブリッシュ」というラフターヨガの一種で、でたらめな言葉を話して言語情報をシャットダウンするというものです。ジブリッシュを通じて僕は英語で会話ができない自分を振り返っていました。英語にこだわり自分の考えを伝える事や相手に伝えようとする事を僕は全く考えていないと改めて感じました。



昼食の時にテーブルごとに行われている参加したい企画に名前を書きます。

セッション2では英語を聞き取るだけじゃなく、自分の意見を英語で話すことに。その中で僕は英語ができない中焦っていると参加者の一人が日本語で僕をフォローしてくれました。その方は台湾の方で、常に僕のサポートをしてくれました。その方が最後に「英語がわからないのに海外に行き、勉強する事は勇気がある。君はチャレンジャーだ」と僕に言ってくれました。



セッション2 セッションごとにグラフィカーがイラストで流れを目で見ても分かるように手書きで書いています！

そして僕は英語がわからず、この言葉にもうまく返答することが出来ずに、悔しかった。そうしてただただ悔しい思いの中、一人ホテルの部屋に戻り、どうしても英語が出来ない僕は自分を責め続けました。

このままじゃ僕は何もできない。何も変わらない。今この瞬間できることはないか。僕はノートを開いて、とにかく自分の気持ちや考えを書きました、ここに来てからのことここに来る前のこと、そして今のこと。文字にしてみるとどんどん冷静になっていきましたそして今英語が出来ないことはどうやっても変えることのできない事実。変えるべきは自分の感じ方だ。「変わるのは自分自身だ」今回のIAFに向かうときに僕は英語が出来ないことはわかっていた。でも僕にとっては「挑戦」だったのです。今までも、これからも経験する事が出来ないかもしれない大きな「挑戦」なのです。その挑戦を僕は絶対に後悔したくなかった。だから僕は英語が出来なくて分からなかったことは失敗なんかじゃない。挑戦したことからこそ、味わう挫折。挫折と同時にそれでも挑戦したことに気づくことが出来ました。

2日目のセッション3は日本人の香取さんと田原さんが行ったセッションで zoo 使ってワークショップを行いました。僕はそのセッションの中でカメラマンとしてお手伝いをしたいと手を上げました。これも挑戦です。

セッションの中ではデジタルの分野がどのようにファシリテーションやワークショップを行う上で活躍できるのか。どんな問題があるのか。実際に zoom で使ってみてグループ毎に話し合うというものでした。デジタルの分野がファシリテーションとどう関わっていき、どう変えていくのかをワクワクしながらお手伝いさせていただきました。

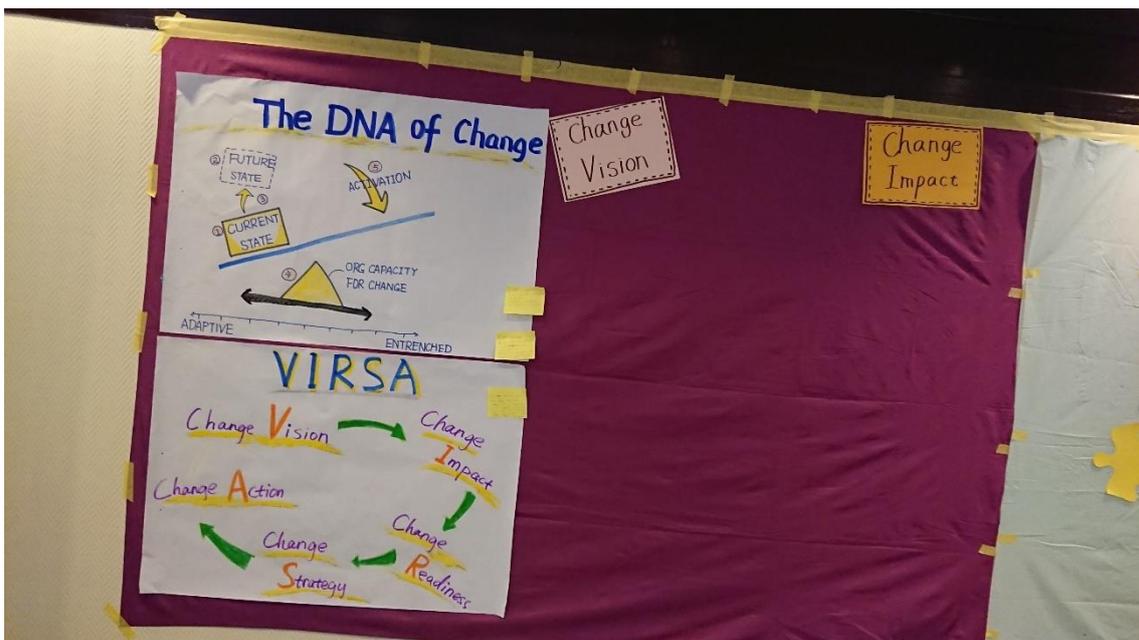
セッションを通してインターネットは人との繋がりが希薄になると感じていましたが、使い方を工夫してみることで強みを活かすことが出来るのだと感じました。

セッション4も英語がわからず大変でした。

セッションは今の状態を変えることが更なる成長に繋がるというものでした。

見方を変え、考え方を変え、心がけを変えて、作戦を変えて、行動を変える

そうして成長することが出来る。1つを変えていくことでなりたい自分に成長していくというものでした。



セッション4の写真 変化を生み出すことが将来の自分を変える

そして最後に閉会式を迎えました。

1日目と違い2日目では現状は変わっていないのに分からないなりに楽しんでいました。常に挑戦したことへの自信を持ち、ジブリッシュで気づいた相手との間に言語ではない非言語コミュニケーションで心の会話を意識するようになり、分からなくても失敗ではなく挑戦したのだと自分の捉え方が変わったのです。

セッション 4 で変化することが成長に繋がるということが IAF を通して体験することができたのです。

そして今回の IAF ではファシリテーションの内面的なプロセスを実感しました。言語ばかりに頼る対話ではなく相手の状況に応じた非言語的な対話の重要性を英語が出来ないからこそ、身をもって実感しました。最初のグループを作る時に英語が分からない僕に「日本語でもいいよ」と声をかけてくれて僕はとてもうれしかった。チームの一員になれた。

セッション 2 では台湾の方がずっと日本語でフォローしてくれた時も僕は一人じゃないと思えた。人と人の中には決して目に見える繋がりだけでなく心のつながりがあり、僕はこのつながりの重要性に今回のスカラシップで気づきました。

そして何よりも「挑戦したこと」で僕は誰にも奪われない自信と経験を得る事が出来ました。僕は大学生活だけでなく就職した後も「挑戦する事」は忘れません。